- 家族の経済状態
- 学校環境
  - 教師，児童生徒集団の特徴
  - 転校，学級編成
- 社会環境
  - 住居，近隣の状況
  - 家族の地域における活動状況
- その他

実存的次元

- 社会的規範性
- 社会的慣行への志向
- 道徳性
- 自己実現のレベル
- よりよく生きることへの意欲
- 家族の倫理観，人生観
- その他

反社会的行動をもつ児童生徒への教育相談を進めるに際しては，その児童生徒の成長過程にそって，問題行動の背景を多次元的に把握し，それを基にして総合的に診断を行うことにより，より適切な指導援助を進めることが可能となる。

しかし，ここに掲げた4つの次元の内容は，必ずしも画然と区別されるものではない。このことは，児童生徒の問題の現象を見ても同様のことが言える。従って，問題によっては，この4つの次元にこだわることなく，必要と思われる視点から必要な資料を収集し，それに基づいてより適切な教育相談を進めることが大切である。

5　反社会的行動をもつ児童生徒の教育相談の進め方

(1)　教育相談の手続

教育相談にあたっては，まず「問題の確認」をする。次にその問題をより明確化するために，多元的に「資料の収集」を行う。そして，資料を検討，解釈して，問題となる行為や行動を「診断」する。これに基づき，「指導仮説」をたて，「指導援助」し，「問題行動の改善・解決」を図り，「再適応」を果たさせるようにする。

図4は，この一連の手続きを示したものである。

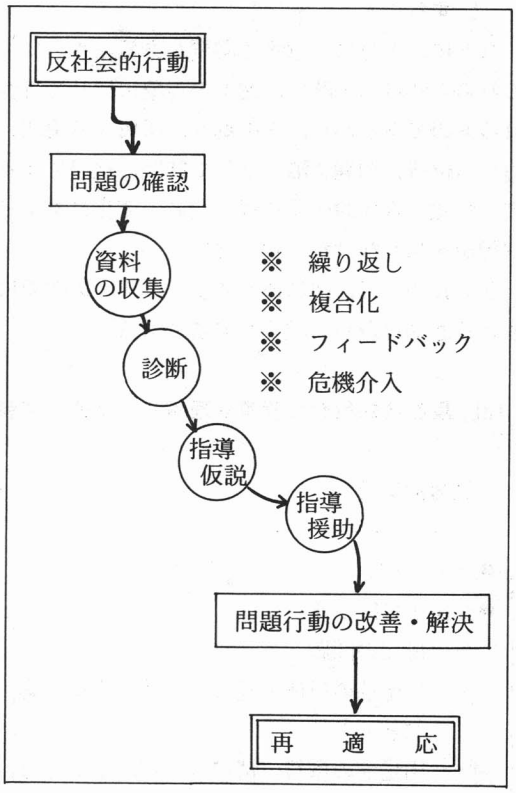

図4　教育相談の手続

ところで，実際の教育相談においては，この手続きは，問題行動が改善・解決されるまで繰り返される。また，資料収集の過程でも同時に診断し指導仮説をたてるなど，複合化しても進められていく。さらに指導援助の効果が十分でない場合に